

高齡社会における価値観と資産の世代間継承

東京家政学院大 家政 上村協子

目的：経済成長期に資産を形成した世代が高齢期となり、高齢者の資産を誰に移転するかが、注目されている。では、高齢者が次世代に継承させる価値観とはなにか。家族を通じて移転する「もの」についての研究を継続してきたが、本報告では、「価値観」の継承についてとりあげ、「もの」と「価値」の世代間継承の枠組みを提示する。

方法：国際長寿社会日本リーダーシップセンター「高齢者の生きがいに係わる精神的背景の日米比較研究」における「世代間の価値の継承に関する予備調査（個別面接聴取法による日米、各60人の一般人調査自由回答）」を基礎に、世代間資産移転の研究成果をあわせて、検討する。調査内容は大切な「こと（価値）」と「もの（物質）」について

- (1) 前世代→対象者 祖父母 親から受け継いだ大切なこと／もの
社会から教えられた大切なこと
- (2) 現在の対象者 大切にしていること／もの
- (3) 対象者→次世代 自分の子供に伝えたい大切なこと／もの
社会全体として次の世代に残すべきこと／もの

結果：家族がもつ世代をつなぐ機能に注目すると以下のような特徴的な回答がみられた日本での「もの」の継承では、「土地」が重要な意味をもつ。

親から受け継いだ価値：日本 人に迷惑をかけない、忍耐、一生懸命
米国 正直、家族との関係、神を信じる

子供に伝えたい価値：日本 思いやり、人に迷惑をかけない、家族や親を大切に
米国 教育、正直、尊敬